

三陸の近景

⑤

復興の光

現在、三陸沿岸部の市街地を走る車両の多くは他県ナンバーのトラックです。各市町村によって復興の進展状況は異なりますが、仮設に暮らしておられる方が移り住むための災害復興住宅がようやく着工し、整地が始まっているためです。

山を切り崩し、多くの土砂を積載し運搬する土木工事に休みはありません。ひっきりなしに走るトラックの巻き起こす粉じんは酷く、道路の傷みも激しいのですが、誰も文句はいえません。なぜなら復興のために必要な過程だからです。

そんな中、岩手県陸前高田市に新たな建造物が完成しました。津

波で壊滅的な被害を受けたホテルが、10月末に移転先で再始動したのです。

移転先は元の位置より約2キロ北側の高台。計画段階では住民の住居よりも、ホテル再建を優先することに反対意見も多くあったそうです。そのせいもあってか規模は震災以前よりも縮小されましたが、人々の声に変化が出てきたのは、建物完成間近の頃です。ホテルの外壁に照明が設置され、夜間の市街地の風景が大きく変化したからです。

それは震災後、まったく明かりのなかった陸前高田の市街地に一つの希望の明かりがついたことを意味します。



このことは、ニュースとしての扱いは小さいのですが、2年半以上同じ風景を眺めてきた現地の方々にとっては大きな復興の光なのです。
(金澤 豊)